



がん強いセールスパーソンになる

3回のがんを経験した50代・乳がん患者さんの事例（前編）

ファイナンシャル・プランナー 黒田 尚子

今回ご紹介するのは、約15年間で3回の別々のタイプの乳がんを経験した山川なつみさん（仮名）の事例です。

山川さんは、これらの乳がん治療のため、左右の乳房を全摘し、乳房再建を行いました。現在も治療や定期検査等を継続中で、生きている限り、続けなければならない抗がん剤治療もあるといいます。

また、40代前半で乳がん罹患して以降、育児や家事、仕事と治療の両立、老親の介護等のほか、離婚や再婚など、さまざまなできごとを経験された山川さん。これまでも振り返って、がんの治療や生活、仕事、お金のことについてお伺いしました。

今月は前編として、主にがん治療の経緯やかかった費用を中心にご紹介します。

■ 山川なつみさん（56歳）のプロフィール〈乳がん・ステージⅠ期・既婚女性〉

家族構成：夫（57歳）と二人暮らし 長女（前夫との子ども・別居）（24歳）

職業：現在は専業主婦。罹患時はパートだったが、店長だったため、ほぼフルタイム勤務。

生命保険加入の有無：有

- ・ 終身医療保険（引受基準緩和型）／入院日額10,000円（60日型）、手術1回につき10万円
- ・ 終身医療保険（引受基準緩和型）／入院日額5,000円（60日型）、手術1回につき5万円、先進医療給付金あり
- ・ 確定年金

■ 罹患の経緯と現在の治療状況

41歳のときに、当時勤務先の健康診断で「異常なし」と言われたが、何となく胸のあたりに違和感を感じて触ってみたところ、自分で左乳房のしこりに気付き、近所の病院を受診した。そこから紹介された大学病院で1回目の乳がんの告知を受ける。術前の抗がん剤治療の後、内視鏡による温存手術を行い、再発防止のために、放射線治療とホルモン治療を受ける。

最初の告知からちょうど10年目となる51歳のときに、かかりつけ病院の定期検査で、新たな乳がんが見つかり2回目の告知を受ける。今度は左乳房全摘手術を行い、再び、抗がん剤治療とホルモン治療をすることに。

さらにその後、55歳のときに、同じく定期検査で、反対側である右乳房にも別のがんが見つかった。3回目の乳がん告知。ステージ0期であり、医師から温存手術も可だと言われたが、これまでの経緯から、迷わず右乳房全摘を選択。乳房再建が保険適用になってきたこともあり、それまで再建を行っていなかった左乳房も含めて、シリコンインプラントによる乳房再建を行った。

現在も、ホルモン治療（1ヵ月ごと。10年間の予定）と定期検査（血液検査は3ヵ月ごと、その他の検査は半年ごと）のため定期的に通院しているほか、骨転移に効果的だと医師に勧められた抗がん剤治療（半年ごと）は、全額自己負担で、一生継続する予定である。

■ これまでにかかった支出について（＊自己負担についてはすべて3割負担）

● 1回目

2002年10月（罹患時年齢41歳）

勤務先の健康診断（エコー検査）で異常なし。その当時、マンモグラフィは受けていなかった。

- ・ 医療費 → 自己負担約0.5万円

同年11月

自分で左乳房にしこりを見つける。

同年12月

近所の病院を受診。17mmのしこりを確認。専門の大学病院を紹介され、再びエコー検査、MRI検査を受ける。

- ・医療費 → 自己負担約2.5万円

2003年1月～

MRI、マンモグラフィ、エコー検査の所見が一致したため細胞診を行う。

その後、がんと確定診断を受ける。はっきりとしたステージを言われた記憶はないが、おそらくⅠ期程度。乳房温存で治療を進めることを決め、がんと確定1週間後より術前の抗がん剤治療を開始した(パクリタキセル、3ヵ月間/週1回×12回)。

- ・医療費 → 自己負担約40万円

同年5月～6月

内視鏡手術によりがん摘出(乳房温存)。下腹部の脂肪を入れて乳房の形状を整えてもらい、術後の仕上がりは、とてもきれいだった。入院期間24日間(娘の運動会のため、一時退院あり)

- ・医療費 → 自己負担約10万円

同年7月～

ホルモン療法(リュープロレリン(約1年間/月1回×14回) + タモキシフェン(5年間/1年目は毎月、2年目以降は3ヵ月に1回で2008年まで継続)を開始。

- ・医療費 → 自己負担約63万円

同年7月～

放射線治療を開始。25回照射を行う。

- ・医療費 → 自己負担約10万円

2004年～2011年

定期検査(CT、骨シンチ、エコー検査、MRIなど)のため通院。

- ・医療費 → 自己負担約86万円

●2回目

2012年5月(罹患時年齢51歳)

しばらく前から、左乳房の下腹部の脂肪を入れた部分が石灰化してゴツゴツして気になっていた。切除を希望していたが、医師からは「しない方が良い」と言われた。その後、その部分が大きくなり、紫色に変色してきたため、1回目のがん罹患後から継続して受けていた定期検査の際に、急きょ精密検査を行うことに。

検査の結果、温存した左乳房に新たな乳がんが見つかり、“顔つき”の良いがんと言われたが広範囲に摘出する必要があるということで、左乳房全摘手術を行った(入院期間10日間)。

- ・医療費 → 自己負担約10万円

同年6月～

術後の抗がん剤治療(パクリタキセル、3ヵ月間/週1回×12回)、経口薬の抗がん剤の服用(ドキシフルリジン、シクロホスファミドを各1錠、～2013年10月まで1ヵ月ごと処方。約1年半)を開始。

抗がん剤とは別に、骨転移以外に他の臓器への転移にも効果があると医師から勧められてゾメタ点滴静注(商品名、半年ごと)を開始。ただし、保険診療適用外のため全額自己負担(1回54,000円→ジェネリックに変更後は27,000円)

- ・医療費 → 自己負担約45万円

同年8月～

ホルモン治療(エキセメスタン→2016年7月からアストロゾールに変更)開始。

- ・医療費 → 自己負担約3万円

2013年～2014年

ホルモン治療等および定期検査のため引き続き複数の病院に通院。

- ・医療費 → 自己負担約49万円

●3回目

2015年8月(罹患時年齢55歳)

2回目のがん以降から引き続き、定期検査等を受けていたところ、右乳房にがんの可能性があると告げられ、別の専門病院でマンモトーム生検を受けることになった。

その結果、非浸潤0期の新たな乳がんが見つかる。右乳房全摘手術+同時再建を行う(入院期間10日

間)。

右乳房に関しては、再発防止の治療は行わず。左乳房の治療の継続としてホルモン治療のみ継続。

- ・医療費 → 自己負担約38万円

2016年2月

右乳房のティッシュエキスパンダーをインプラントに入れ替えて再建完了(入院期間10日間)。

- ・医療費 → 自己負担約9万円

同年3月

左乳房再建のため背中より皮弁移植。ティッシュエキスパンダーを入れる(入院期間11日間)。

- ・医療費 → 自己負担約9万円

同年10月

左乳房ティッシュエキスパンダーをインプラントに入れ替えて再建完了(入院期間7日間)。

- ・医療費 → 自己負担約8万円

2016年～

ホルモン治療等および定期検査のため引き続き複数の病院に通院。

- ・医療費 → 自己負担約24万円

●現在

乳腺外科と形成外科に通院中(いずれも1ヵ月ごと)。

かかった費用(おもに医療費)の総額(自己負担分)→約407万円

■ 山川なつみさんのPatient's Voice

1回目の乳がんが見つかる少し前から父が脳梗塞で倒れ、リハビリが必要な状態でした。母はうつ病のような症状が出ていて、離れて暮らしていたのですが、「食べるものが何もない」「うつなので出かけられない」と職場に電話がかかってくるのです。仕事が終わって、食料品を買い込んで実家に行き面倒を見ていました。それから自宅に戻って、まだ小学生だった娘の世話もありましたし、家事もやらなければいけません。前夫とは、以前から意思疎通ができなくなっていて、まったく協力してもらえませんでした。

ですから、乳がん罹患した当時は、自分の病気と両親の介護、夫との関係といった三重苦の状態でしたね。

結局、前夫との関係は改善しないまま、2014年3月に離婚が成立。娘は父親の方についていきました。そのことはとても辛かったのですが、とにかく失うものは失う覚悟でいかなければ、前に進めないと思って決めました。今の夫とは、2015年4月に再婚しました。以前からの知り合いで、病気のこと、家族のこと、経済的なことなど、色々と相談に乗ってもらっていたのです。

がんについては、右乳房、左乳房とも3回も乳がんが見つかりましたが、再発・転移などではなく、すべて異なるがんだったから生きられているのかなとも思っています。

長期にわたってがん治療を受けていて、手術も抗がん剤治療もそうですが、1回目と2回目では、医療システムや費用面でずいぶん様変わりしたと感じました。

2003年にはじめて温存手術で入院したときは20日以上入院していたのに、2012年の全摘手術は10日間。抗がん剤治療も、1回目の料金はものすごく高くて、1回3万円だったことをよく覚えています。

最初の頃、医療費は前夫が負担してくれていました。前夫は普通のサラリーマンで、あまり収入も高くなかったのも、マイカーを売却して医療費を捻出してくれたことは感謝しています。

ですから費用については、前夫に任せていた最初の方は、すこし分からない部分もあります。お話した費用は、主に記録として残っている病院に支払った医療費で、交通費や副作用を緩和するための費用です。それ以外の関連費用を含めれば、さらにお金はかかっているはず。いずれにせよ、期間も長いですし、少ない額ではありませんね(苦笑)。

次回は、後編として、山川なつみさんの収入の変化や加入していた保険等についてご紹介します。

2017.06.26

<黒田尚子さんの記事は原則、毎月第4月曜日に更新します。次回は7月24日の予定です>

黒田 尚子(くろだ・なおこ)

CFP®資格、1級ファイナンシャル・プランニング技能士

CNJ認定乳がん体験者コーディネーター

消費生活専門相談員資格

大学卒業後、日本総合研究所勤務を経て、FP資格を取得。1997年同社退社後、1998年FPとして独立。2000年拠点を関西から関東に移し、新聞、雑誌、サイト等の執筆、講演のほか、個人向けコンサルティングなどを幅広く行う。「夢をカタチに」がモットー。2009年末に乳がん告知を受け、

「がんとお金の本」(ピーケーシー)を上梓。自らの体験をもとに、がんに対する経済的備えの重要性を訴える活動を行う。「がんサポート」(エビデンス社)にて「FP黒田尚子のがんマネー処世術」を連載中。一般社団法人日本ライフマイスター協会の「がん保険アドバイザー」講座で講師を務める(「がん保険アドバイザー」<http://cancer.life-meister.jp/adviser/>)

黒田尚子FPオフィス <http://www.naoko-kuroda.com>



黒田尚子さんの新刊が出ました！

『がん患者が教えてくれた本当のところ がんとお金の真実』

(セールス手帖社保険 F P S 研究所刊)

知っておくべき「がんとお金」の知識を一冊に凝縮！

<目次>

第1部 がんにかかるお金と経済的リスクへの備え Q&A

第1章 がんとお金 支出編

第2章 がんとお金 収入編

第3章 がんによる経済的リスクへの備え方

第2部 【実例】がんにかかったお金の真実

胃がんの事例・大腸がんの事例・肺がんの事例・前立腺がんの事例・乳がんの事例・肝臓がんの事例

詳しくは[こちら](#)をご覧ください。



記事を印刷する

[トップページに戻る](#)

[がんに強いセールスパーソンになる一覽へ](#)